

チャレンジ発見!



みんなのせんだいめぐり 2021

実施報告

2021～2030年度の10年間のまちづくりの方向性を示す「仙台市基本計画」では、まちづくりの理念を「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City”SENDAI～」とし、重点的な取り組みとして8つのチャレンジプロジェクトを掲げています。

仙台市政策企画課では、実際に活動している方々のお話を聴きながら、自分自身ができるまちづくりへの想いをめぐらせるオンラインイベントを開催しました。
このイベントには、14歳から30歳までの延べ20名の方が参加し、「自分にとって理想の“The Greenest City”」や「定禅寺通でこんな過ごし方をしたい」などについて意見を共有しました。



めぐ
ルート
1

テーマA ソーシャル・イノベーションを通じた仙台・東北の発展

講師 竹川 隆司 氏(一般社団法人 IMPACT Foundation Japan 代表理事)

仙台市基本計画の理念の副題「The Greenest City」の生みの親である竹川氏に、他都市と比較しての仙台の現状や強みなどのお話を伺うとともに、ケーススタディを通じて、その言葉に込められた意味にも迫ります。

起業家育成・支援を目的とした「INTILAQ」の紹介



カタルフレンド基金から支援を受けて活動。中東の雰囲気を体感しながらミーティングもできる部屋も！



小中学生向けの起業家支援プログラム。会社経営のバーチャル体験なども実施！



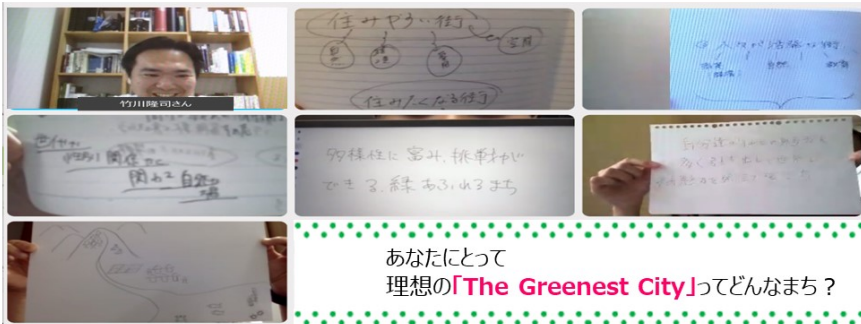
起業家の
育成・支援

仙台・東北から
新しいビジネスや
サービスを生み出す

仙台市基本計画の説明「The Greenest City」を考える&ワークショップ



海外で「Greenest City」と呼ばれる上位3都市（コペンハーゲン・バンクーバー・アムステルダム）をGoogle検索をして写真を比較したものを講師から紹介。参加者からは、「3都市は建物が水辺にある」「仙台は3都市より木は多いが、水の要素が少ない」などの感想を発表



あなたにとって
理想の「The Greenest City」ってどんなまち？

めぐ
ルート
1
[9/4] 参加者の感想

★「The Greenest City」の由来が聞けてよかった。★総合計画について色々知れたのが良い経験だった。
★社会問題などにも触れながら、まちづくりに今まで触れたことのない視点に立って考えることができました。また、文化芸術を通じて心もバリアフリーな社会を目指すというまた考えたことのない世界を知ることができて、視野が広がったように感じました。

めぐ
ルート
1

テーマB アートをより良い社会づくりに生かす取り組み

講師 及川 多香子 氏(特定非営利活動法人 アートワークショップすんぷちよ 代表)

演劇やダンスなど、アートが持つ力を社会のさまざまな課題の解決に生かす活動を始めたきっかけや活動に込めた思い、理想とする仙台の未来などのお話を伺います。

「アートワークショップすんぷちよ」の活動紹介



一人ひとりの「感覚」で伝える、それぞれの演劇



継続するためにも、ダンスができる居場所を守っていくことが大切



文化芸術は柔軟！みんなの「身体表現」がすべてのダンス

すんぷちよで行っているワークショップをみんなでやってみよう！



部屋の中で1番カッコイイものを持って来て～！

参加者が自分の部屋にある「カッコイイ」と思うものを探し、講師の合図で一斉に見せ合い、一人ずつ選んだ理由を発表しながら共有

すんぷちよで活動しているダンサー大槻真綾さんも交えて質問タイム



障害のある人が地域に溶け込んで、自分の意思で選択できる生活を送ることが大事

友達として接してもらえると嬉しい！



身に着けている「ヘルプマーク」から、その方が発信していることをキャッチ！

特別扱いせずに「配慮した方が良いですか？」と聞いてみるもOK

積極的に関わってみる！

めぐ
ルート
2

テーマC 公民連携による憩いや交流の拠点づくり
講師 本郷 紘一 氏(せんだいディベロップメントコミッション株式会社 代表取締役 CEO)
 美容室やカフェを経営する傍らイベントを手掛ける本郷氏に、多彩な活動を展開するための「あったらいいな」を実現する行動力の秘けつや、肴町エリアの魅力アップに込めた想いを伺います。

講師が携わる活動の紹介



「実験する精神」と
「実験を受け入れる精神」が
仙台にはある



「人」が滞在する
空間をつくる
▼
「交流の拠点づくり」
につながる



車道の一部を転用した人のための空間「パークレット」。定禅寺通が憩いの場へ



“シンプルに俺が公園が好きで始めてみた”「DAYOUT!!」はそんな想いから生まれた活動。利用率の98%が鳩だった肴町公園の魅力向上のため、ハンモックや屋台、フリーマーケットなどで賑わいを創出



子どもたちにも公園のリノベーションに携わってもらうことで、「誰かの公園」から「自分の公園」へ

交流会



まちづくりに興味を持ったきっかけは？

- 仙台が持つ豊かさに気付いた
- “ローカル”の良さ
- 東京に行かなくても楽しめるようにしたい
- 仙台をオシャレにしたい

めぐ
ルート
2

テーマD 定禅寺通のアップグレードを通じた都心回遊づくり
講師 榊原 進 氏(特定非営利活動法人 都市デザインワークス 代表理事)
 杜の都のシンボル・定禅寺通が、今なぜアップグレードが必要なのかや、仙台都心の将来像などを何うとともに、実際に利活用の様子を見学しながら、定禅寺通が「こうなったらいいな」を一緒に考えます。

「都市デザインワークス」設立時の想い紹介



都心を流れる広瀬川一帯の魅力を高める「せんだいセントラルパーク」の提案と実践、地下鉄荒井駅を起点とする「仙台海手ネットワーク」のコーディネートにも取り組み、まちづくりの専門家として三者の想いをついでいる

なぜ今、定禅寺通のアップグレードか？

- 仙台のまちづくり：仙台市街地の変遷
- 1601年～伊達政宗公による築城・城下町づくり
 - 1870年頃～明治維新による近代化 (1887年東北本線開通、1926年市電開通)
 - 1946年～戦災復興区画整理による広幅員道路等整備
 - 1960年代～高度経済成長による市街地の拡大 (住宅団地、アーケード架設、1987年地下鉄南北線開通)
 - 2010年頃～震災復興と都心再構築 ←イマココ (市街地拡大抑制、2015年地下鉄東西線、建替促進)
- 今後10年で都心が変わる？！
- まとめ：なぜ今、定禅寺通のアップグレードか？
- ① 未来の仙台都心への投資
 - 仙台駅周辺への一極集中
 - 定禅寺通のコアとしての位置付けの低下
 - 青葉通・一番町エリアも含めた3つのコアを磁場とした回遊性
 - ② 公共空間の利活用を後押しする制度の創設
 - ウォークアブル (居心地が良く歩きたくなる)
 - 「行政による整備・管理」から「民間主導の活用・収益」へ
 - ③ 次代を見据えた担い手への継承
 - レジエント達から中堅・若手人材へ
 - 公共空間で継ぎ街へ還元するエリアマネジメントへ挑戦

仙台市街地の変遷や参加者が持つ仙台と定禅寺通のイメージを踏まえながら、定禅寺通のまちづくりのながれや実現したい街の空間イメージなどを説明。定禅寺通は、戦災復興土地区画整理による幅幅に伴いウヤギが植樹され、今では「杜の都」のシンボルに

ワークショップ 未来の定禅寺通が「こうなったらいいな」を考える

大きなスクリーンでゲームがしたい！

寝転がりたい！

セグウェイをしてみたい！

ハンモックやアウトドアをしてみたい！

充電スペースもあつたらいいな

のんびりおしゃべりしたい！

定禅寺通でどんな過ごし方をしたい？

ふらっと立ち寄れるライトな感じの飲み屋さんがあつたらいいな

テイクアウト専門店を買って食べたい！

道路や商店街を子どもたちが走るイベントがあつたら良さそう！

茶道をしてみたい！

めぐ
ルート
2
[9/4] 参加者の感想

★今現在どのように企業・行政・市民が関わって事業が遂行されているのかがわかった。もっと知識を増やして具体的な事業アイデアをだしていきたい。
 ★お洒落な景観等の形を自分の頭の中でイメージするにも、海外の都市づくりを勉強する必要があると感じた。★とても勉強になった。また、今後の展開なども聞けて、さらにまちづくりへの関心が高まった。★定禅寺通の活用方法について参加者で考えることが楽しかった。
 ★定禅寺通でやってみたいことについての話し合いでは、学校外の方々の意見を聞くことができただけでなく、これが今後の企画の参考にさせていただけるとかもしれないと思い、自分も「まちづくり」に参加しているという気持ちになれました。

テーマE 復興の先の持続可能な農村づくりに向けて

講師 二木 洸行 氏(一般社団法人 ReRoots 代表理事)

震災当初から学生ボランティアとして参加しながら、現在の農業の持続的発展に向けた活動に込めた想いや、目指す将来の農村のあり方などのお話を伺うとともに、実際に「わらアート」の制作を体験します。

※オンライン開催に伴い、当初予定していた「わらアート」の制作体験は中止

「ReRoots」の活動紹介

～震災復興・地域支援～
ReRoots
仙台市若林区における
農業・農村の再生と若者の挑戦
一般社団法人 ReRoots 代表 二木 洸行

二つの部門と仙台市内6大学約70名のメンバー
農業再生部門 野良作り 野良販売 寄りや文化の再生 農村ツーリズム
東北大学、東北学院大学、宮城大学、宮城学院女子大学、宮城教育大学、東北福祉大学から約70名のメンバーで構成
退休地を活用して農家から野菜作りの姿勢や技術を教わる

被災者の生活を再建するまでどんな支援が必要か探るため、宮城野区や若林区の特徴を分析し、「農業支援ボランティア」として、農家や住民の立場・目線に立ち活動

学生自身が野菜づくりを行い、農業の後継者も輩出

わらアート作品

テラコワルス ステゴザウルス
子どもは3000人へ
フロントザウルス トリザウルス
どっぴおの館常設とコラボ
小学生制作の70体のわらアート

被災した田んぼの稲わらを用いた巨大なオブジェ「わらアート」は、復興のシンボルとして地域の恒例行事へと発展

仙台の大学生が
地元の復興を担う主体となり、
若林区の魅力を発信

住民自身が地域づくりに取り組み、
住民と一緒に協働できる
地域おこしへ

クイズ&交流会

日本の主食 お米

・日本は1人あたり1年間に何キロのお米を食べる？
①30キロ ②60キロ ③100キロ
答：②60キロ

・茶碗1杯のお米を作るには田んぼの面積はどれくらい必要？
①新聞紙1枚分
②たたみ1枚分
③テニスコート1面分
答：①新聞紙1枚分

では、ごはん一杯分のお米はいくら？

茶碗1杯のお米をつかって、農家の手元にはいくら入る？

①ポッキー4本分 (約15円)
②うまい棒3本分 (約30円)
③50円ぴったり
④ガリガリ君1本分 (60円)
答：①ポッキー4本分(約15円)



今回のテーマの
「地域づくり」に関心
を持ったきっかけは？

地元で当たり前のよ
うに地域と関わってい
たから！

講師の活動
拠点が地元
に近かった！

コミュニティ・センター
で関連する活動
内容を見た！

ボランティアに
参加したことが
きっかけ！

参加者の感想

★SDGsに結びつくような話で面白かった。★より地域の優れた特産品などを扱ったまちづくりや町おこしに興味関心をもてるようになりました。★地元の魅力を様々なかたちで発信していることを知ることができ、興味深かった。もっと知りたいと感じた。オンラインではなく、実際に見てまわったり触れて感じられるイベントができるようになると良いと思った。

テーマF アップサイクルによる資源循環型社会の実現

講師 引地 恵 氏(株式会社 WATALIS 代表取締役)

使われなくなった着物地に新たな付加価値を持たせてアップサイクルした製品「FUGURO」に込めた想いや、アップサイクル文化の醸成を通じて目指したい社会などのお話を伺うとともに、実際にきものブローチづくりを体験します。

「WATALIS」の活動紹介

地域の宝との出会い → 暮らしと再生の文化は地域課題の解決 地域文化の新たな発展の方向性 → 文化という地域資源を商品に 日本の「伝統美」+ 五理の「返礼文化」をグローバルへ

ふくろ FUGURO
地域に根付く「縫製技術」や「感謝を形にする生き方」を伝承するため、タンスに眠る古い着物地を活かした商品として可視化

「世界に誇れる地域の宝物」として、海外ブランドとのコラボ商品の制作などにも取り組み発信の場が拡大

▲2015.02 ドイツアンビエンテ 国際消費財見本市出展
▲FUGUROの商品説明書 (日本語版)
▲2019.04 Long-Term Investors Club 第5期総会 及び 2019 Conference Tokyo 2019 における海外ゲスト向けの上座席に採用

地域課題を
見つめ直す

解決に向けた
新たなチャレンジへ

課題解決に向けて、新たなチャレンジ 農業体験

▲大豆の種まき ▲野菜作業
▲おぼろや、さつまもも

課題解決に向けて、新たなチャレンジ 養蜂

▲日本蜜蜂維持推進協議会、手入れ ▲養蜂研修会

「きものブローチづくり」を体験してみよう！

引地恵さん

参加者は事前に送ったキットを用いて体験。どんな意味が込められた着物地が届いたかは、一期一会のお楽しみ◎ (右端はワークショップキットの一例)



みんな
きものブローチ
できたかな？



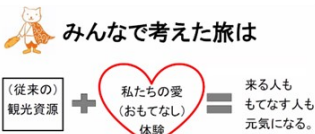
完成のイメージ (学校教育機関で実施した際の様子)

めぐ
ルート
4

テーマG 地域の魅力を最大限に引き出すまちおこし
 講師 高木 まゆみ 氏(株式会社 また旅くらぶ 代表取締役)
 地域の魅力を引き出しながら人と人をつなげる、地元密着型の観光ツアーを青森市内で企画・実施して感じた仙台の現在地や、設立に携わった「津軽海峡マグロ女子会」を通じたまちおこしに込めた想いを伺います。

「また旅くらぶ」の活動紹介

ツアーを企画するきっかけ
 多くの地域が抱える課題は
 ● 人口減少で地域に活気がなくなった。
 ● 消費経済の縮小
 私たちに何ができるのか？
 ○ 考えるきっかけ(機会)が必要
 ○ 一緒に考える人(相手)が必要
 ○ やってみる(場)が必要



来訪者の受入による気付きが刺激となり、「次はこうしたい」という想いを積み重ねて観光事業へと発展

事業を創めたのは人との出会いがきっかけ。小さな実践を積み重ねて絆を深め、地域の宝を活かしながら自分たちのできることを「やってみる」

「津軽海峡マグロ女子会」の活動紹介



□ 津軽海峡のマグロが泳ぎ続けるように、次から次へとチャレンジし続ける私たちの会。
 ー北海道道南と青森県の女性たちが任意で2014年結成、活動中！
 北海道新幹線開業をきっかけに、現在は会員数98名で活動。通称「マグ女」として、頑張っている人と人をつないで、地域全体を輝かせている

地元の方から学びながら、人をつなげて道をつくる
 津軽海峡圏の元気づくりの牽引役へ

「津軽の暮らしラボ」代表社員の吉田涼香さんと交えてフリートーク

地元ではない場所でも、郷土料理を通して人や地域と繋がっていくことが楽しかった！
自分のやってみたいことにチャレンジしてみよう！



この企画を通して改めて「縁」を感じました！

ぜひ青森に行ってみよう！顔を出す機会を増やしていきたい！

心が動かされた方との出会いについて話があったが、「ホンモノ」の方を紹介するのがすごい！

町おこしは一人ではできないなと感じ、地域活性化につながりたいと思った！

めぐ
ルート
4

テーマH 女性と若者が生き生きと輝く仙台の実現
 講師 松橋 穂波 氏(株式会社 epi&company 代表取締役)
 女性が輝ける社会の実現を目指して学生時代に活動を始めたきっかけや、若者の地元定着にも精力的に取り組む理由、実現したい仙台・東北の将来像などのお話を伺います。

起業するきっかけ



東日本大震災後、プレゼントされた1本の口紅から女性にとって美しくあることが大事だと気付く。その後、企画運営に携わったファッションショーや東西線開業イベントを通して、アイデアを形にする楽しさに触れる

「起業」は身近ではなかったが、ファッションショーに携わったモデルの「人生変わりました」という言葉が自信となり、25歳で起業

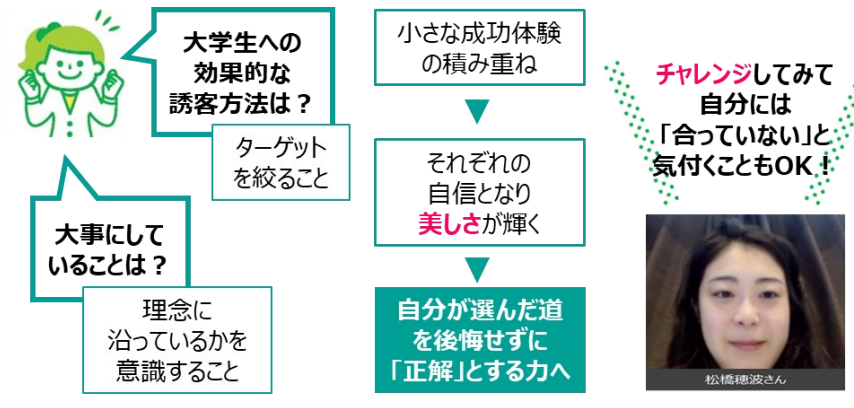
「epi&company」の活動紹介



東北に芸能分野が不足していると感じモデル事務所を開設。所属モデルが若者モニターとして商品評価を行う事業やセカンドキャリア支援も実施

仙台で働きたい学生と地元企業をマッチング
 仙台で働きたいが情報が少なく、首都圏に就職する若者が多いことに着目。就職活動における選択肢の幅を広げている

フリートーク



めぐ
ルート
4
[9/12]

参加者の感想

★人とのつながりの中で生まれる新たな交流やビジネスの発展について深く知ることができました。
 ★アフターコロナでは、体験型の旅行のパッケージは非常に需要があると感じた。また、新規ビジネスを考える考え方についても参考になり、全体的に非常に満足している。★女性の社会参画について考える機会になった。